

「技能と技術」誌表紙デザイン 最優秀賞受賞者および指導者インタビュー

「技能と技術」誌 編集事務局

また、同校から伊藤美紅さんと中村梨々花さんの作品も佳作として選出されています。

1. はじめに

本誌では、例年、本誌に対する意識の高揚とデザイン教育の振興を目的とし表紙デザインコンテストを開催しています。本コンテストは、全国の職業能力開発施設のデザイン系学科の方を対象とし公募しております。そして、応募いただいた作品の中から優秀な作品を選出し、その中で「最も優秀」と評価された作品が、翌年に発行される本誌の表紙を飾ることになります。

今年度の表紙デザイン選考会（令和2年10月開催）では、神奈川県立産業技術短期大学校 産業デザイン科の石黒あかりさんの作品が最優秀賞に選出され、本誌第4号（令和2年12月発行）にてお知らせしたところです。



令和3年「技能と技術」誌表紙デザイン
最優秀賞作品



令和3年「技能と技術」誌表紙デザイン
佳作作品（左：伊藤さん、右：中村さん）

同校は、昨年に引き続き最優秀賞を受賞されていて、毎年、質の高い作品を応募していただいています。

本誌編集事務局では、最優秀賞作品を生み出したコツを知るため、石黒さんおよび産業デザイン科担当の齋藤先生へのインタビューを行いましたので報告します。

2. 神奈川県立産業技術短期大学校 産業デザイン科

同校は、地域社会および経済の発展に寄与することを目的に「高い技能と技術および学識を持つ、創造性豊かな実践技術者」の育成を理念とし、県立の短期大学校として1995年に設立されました。産業の基盤となる「生産技術科」「制御技術科」「電子技術科」「産業デザイン科」「情報技術科」の5科で構成

される、最大規模の職業能力開発短期大学校です。

2年間で4年制大学に匹敵する単位数を修得し、1人1台の実習設備と少人数制（チューター制度）によるきめ細かな指導により、高度な実践技術者の育成を図っています。また、資格取得、各種競技会、地域・企業との連携プログラムにも積極的に参加しています。企業の方々から「しっかりとしたものづくりの知識と技術・技能を身に付けていて、伸びしろがある。」と、高い評価を受けており、設立以来の平均就職率97.3%を保持しています。卒業生は3,600名以上となり、製造分野のリーダーとして、神奈川県内を中心に活躍しています¹⁾。



神奈川県立産業技術短期大学校

石黒さんが学んでいる産業デザイン科は、基礎的造形要素をはじめ、グラフィック、プロダクト、スペースという3つのデザイン分野において、ハンドワークや各種機器の活用により、企画・設計・制作からプレゼンテーションまで幅広く実践できる人材の育成を目標に訓練を実施しています。2年後の学生の仕上り像としては、各種デザインの提案から印刷物の制作作業、工業製品のモデル制作作業、空間の施工作业等、具体的にカタチにできる実践技術者を目指しています²⁾。

3. 授賞式

例年であれば、本誌編集事務局が同校に伺い授賞式を行っていたところですが、今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、校内関係者のみで授賞式を行いました。



下段左より松永校長、最優秀賞の石黒さん、山崎副校長、上段左より佳作の中村さん、齋藤先生、佳作の伊藤さん

4. 受賞者および指導者インタビュー

最優秀賞作品を生み出したコツを知るため、石黒さんおよび産業デザイン科担当の齋藤先生にインタビューを行いましたのでご紹介します。

4.1 受賞者インタビュー

—神奈川県立産業技術短期大学校 産業デザイン科を選んだ理由は？

高校生の時、神奈川県立産業技術短期大学校のオープンキャンパスでの「体験授業が楽しかった」ことが理由です。さらにいろいろなデザイン分野を学べることも知りました。本校は県内にあるため自宅から通いやすいことも選んだ要因の1つです。

—産業デザイン科の良いところを教えてください。

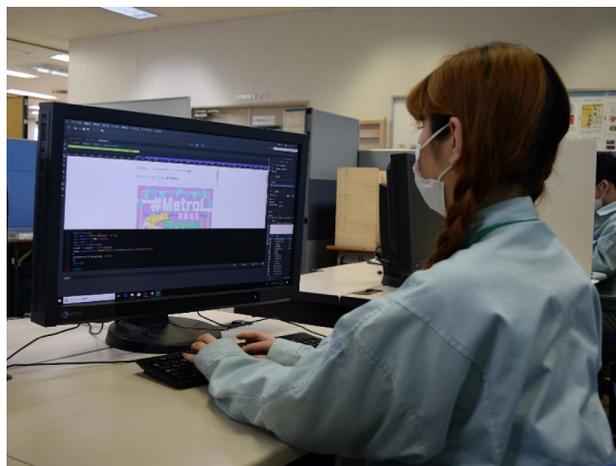
入学時、「デザインに興味がある」というだけで、いろいろなデザインの分野のうち、進路としての分野選択には迷っていました。

けれど本校の産業デザイン科は、1年前期までの半年間にデザイン全般に共通する内容と各分野の基礎を学ぶカリキュラム設定のため、授業が進むうちに自分の方向性を見つけられるのが良いところです。

—好きな科目・実習は何ですか？

「企画・提案をする授業」が好きです。1年時に「キャラバンカーの企画提案と販売促進ツールのデ

デザインをする」テーマでの授業があり、私は移動式プラネタリウムの企画を提案しましたが、この授業からいろいろな幅広い視点でデザインを考えることができました。



実習中の石黒さん

—最優秀賞に選出されたと聞いてどのように感じましたか？

うれしかったです。友達も一緒だったので、みんなで頑張ってたなあと思いました。

—家族に報告しましたか？

はい。母に言いました。「えー、すごいね。何人応募していたの？」と喜んでくれました。

—応募のきっかけは何ですか？

石黒：ご教授いただいている先生からの勧めです。
齋藤：全体に掲示もしていますが、特に私が卒業研究・制作を担当する学生には応募を勧めて、制作に取り組んでいます。

—デザインコンセプトを改めて教えてください。

脳内をイメージし、下からアイデアが湧き、上に行って閃き、技術や技能が生まれていく様子を表現しています。

—どのようにデザインを決めるのですか？

サムネイル^{*1}をいっぱい描いて、メイン（主）を決めてエスキース^{*2}を幾つか描いて選んでいきまし

た。

※1サムネイル 画像を縮小して表示したもの

※2エスキース 下絵

—制作過程で難しいまたは楽しいと感じたところは？

最初、何を描きたいのか考え、決めるまでは、難しかったのですが、仕上げのグラフィックデザインソフト「Illustrator」での作業に入ってから、遠近感や陰影をつけるのは楽しかったです。

—一番時間がかかったところはどこですか？

決めるまでの、サムネイルに時間がかかりました。

—将来の夢は何ですか？

現在、Webデザイナーの仕事に内定しています。いろいろな職種の人と関われるお仕事と思うのでその仕事の良さを発信できるホームページを作りたいです。

—最後に今後応募される皆さんに向けて、一言お願いします。

アイデアの段階で納得のいくものを決めることができれば、仕上げの作業は楽しく最後まで終わることができます。ぜひ取り組んでみてください。

4.2 指導者インタビュー

—貴校から毎年質の高い作品を応募していただいておりますが、その質の高い作品にするため指導の際に気を付けていることはありますか？

プロセスを踏み取り組むことを大切に指導しています。

データ作成に入ってから、実際に画面を見ながら、細かなパーツを増やす、明度差を付けるなど、具体的なアドバイスをするようにしています。

—指導する際に苦労する部分もありますか？

描いてみることで、アイデアは膨らんでいくの

で、手を動かさず考え込んでしまう生徒には、どうアドバイスしたらいいかわからず、苦労します。また、サムネイルやエスキースから何を伝えたい作品か把握することもできるので、この段階から描き込んでほしいと指導しています。

— 「技能と技術」表紙デザイン募集については、訓練の中で役立っていますでしょうか？

1年生前期の共通授業で基本的な構成を学び、選択授業に分かれてからより具体的な構成の授業をしているので今までの過程をどれほど理解できているかを把握することができます。

このプロセスを踏んでデザインに取り組むことが卒業研究・制作にもつながっていると感じています。

5. おわりに

石黒さん、齋藤先生、お忙しい中インタビューを受けていただきありがとうございます。例年であれば対面でインタビューを行っていたところですが、今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、電子メールでインタビューを行いました。実際にお会いして授賞式およびインタビューを行えなかったことは非常に残念でしたが、インタビューを通して受賞の喜びを感じることができました。就職先でもご活躍を期待しております。

また、来年も3年連続で同校の学生が最優秀賞を受賞できるかが楽しみです。

<参考文献>

- 1) 神奈川県立産業技術短期大学校, 学校紹介,
<http://www.kanagawa-cit.ac.jp/aboutus/index.html>
参照：2021年1月
- 2) 神奈川県立産業技術短期大学校, 産業デザイン科,
http://www.kanagawa-cit.ac.jp/department/sub_dsgn/index.html 参照：2021年1月